

## 様式 1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 南部 豊 〕

東員町議会議長 三宅 耕三 様

総務建設常任委員会 行政視察研修報告書

委員長

南部 豊

令和 4 年 10 月 13 日

視察先 玉城町社会福祉協議会

議員 6 名 事務局 2 名

事務局長 西野公啓（きみよし）氏

### テーマ

元気バスの運行管理と地域社会への取り組みについて

オンデマンド方式による「元気バス」の導入

上記テーマについて研修を受けた。

平成 8 年 民間路線バスの大幅縮小

平成 9 年 29 人乗りマイクロバス 2 台を無料で運行開始

・路線数 3 ルート ・運行便数 1 日 19 便 年間利用者数 27,000 人

・1 便平均乗客数 4.5 人・予算 約 1,000 万円/年で「からバス」「空気バス」と呼ばれていた。 サービスを向上させたい。が、予算はかけられない。

そこで、 ⇒ オンデマンド交通の導入（平成 21 年）

### 期待

- ・予約制乗り合いバス ・乗り合いによりタクシーより高効率
- ・乗客がいなければ移動せず、路線バスより高効率
- ・多数のバス停を設置できるため利便性が高い。

### 課題

- ・オペレーター配車に伴うコスト増 ・予約が手間と 6 割が感じている。
- ・買取サーバーにかかるコスト増 ・運転手に負担がかかる車載器

東京大学大学院と連携し「元気バス」の実証実験

「三重県ふるさと雇用再生特別基金事業市町等補助金」の交付を受け、

平成 21・22・23 年度実施。 玉城町さんには、当町から平成 23 年に元気バス事業の視察研修に訪れています。

現時点では、いろいろな課題や問題点を経て、今がありますが、予約を簡単にするインターフェースからパソコンに不慣れな利用者の代わりにオペレーターの希望、入力が可能となり、高齢者予約の利用向上となりました。

### 結果

元気づくりシステム導入による効果と期待は、「新しい総合事業との連携」により、高齢者の交通手段だけではなく、高齢者の方々が活発化することによる介護保険費の抑制や、地域包括支援事業・フレイル予防に繋がること望ましいと思われる視察研修でありました。